



尾張中央ロータリークラブ WEEKLY REPORT 2017-2018



ロータリー：
変化をもたらす

2017-2018年度国際ロータリーのテーマ

会長：大野東秀
幹事：富田昭夫
会報委員長：熊澤勝則

承認日：1984年1月30日
例会日：毎週水曜日
例会場：名鉄グランドホテル・CBC自動車学校

事務局：〒481-0004 北名古屋市鹿田坂巻5-1
TEL:0568(25)4701 FAX:0568(25)4702
mail:kita2a-owarichuo-rc@rhythm.ocn.ne.jp

青少年奉仕月間

2018年5月23日 第1628回 例会
CBC自動車学校

司会 会場委員会委員長 松岡幸彦

点鐘 会長 大野東秀

唱和 ソングリーダー 住川誠一

四つのテスト

会長挨拶 会長 大野東秀

こんにちは！来週日曜日27日は北名古屋市環境美化推進委員会主催によるゴミゼロ運動に、社会奉仕活動の一環としてクラブ所在地域に住む人々の生活の質を高めるために他の団体等と協力しながら参加し活動して頂きます。

詳しくは後程、社会奉仕委員会から説明があると思います。万障お繰り合わせてご参加をお願い申し上げます。

又、6月6日の例会にて尾張中央ロータリークラブ細則の改訂について採決を致します。ご理解、ご協力を賜ります様お願い致します。



幹事報告

幹事 富田昭夫

1. 会長・幹事会の件
日時／6月5日(火) 18:00
場所／舞鶴館
西尾張分区2017-18年度 第三回会長・幹事会の案内
出席義務者／大野会長・富田幹事

出席報告

委員長 太田利和

第1628回
会員数：33名 出席数：20名 出席率：74%
前々回第1626回 修正出席率：86.2%

ニコボックス

委員長 今村康宏

- 大野(東)君 27日ゴミゼロ運動に皆様ご参加宜しくお願い致します。
- 西村君 結婚記念のお祝いをして頂いた喜び！5/13(日)～18(金)までミャンマーへ行ってきました。
- 平野君 ゴルフコンペで3位に入賞の喜び
- 瀧本君 本日国際奉仕委員会住川さんの依頼で卓話をさせていただきます。(鉄砲伝来)
- 片山君 業務多忙
- 太田(吉)君 先日の情報委員会の勉強会に多くの方に参加頂きありがとうございます。
- 平岩君 結婚記念日のお祝いを頂いて。業務多忙ですみません。
- 太田(利)君 ゴミゼロ運動欠席のお詫び。申し訳ありません。
- 鬼頭君 夜間例会お疲れ様でした。いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。
- 今村君 連続の欠席のお詫び。いつも皆様の温情にたすけられています。感謝です。
- 田島君 ロータリー情報委員会の皆さま、先日の新入会員研修会ありがとうございました。

《第1628回例会 ニコボックス》

寄付会員数 11名
本日の合計額 54,000円
本日までの累計額 1,470,000円

委員会報告

○社会奉仕委員会

5月27日(日)ゴミゼロ運動
ピアゴ西駐車場 8:50集合

○ロータリー情報委員会

情報委員会新人研修会への参加の御礼

○卓話 瀧本君「鉄砲伝来」

卓話

「鉄砲の伝来」そこから学ぶべきは…

瀧本 守



今から473年前1543年(天文22年)中国の難破船に乗っていた三人のポルトガル人が火縄銃を種子島に伝えたという、諸説ある中で最も一般的に知られた鉄砲伝来の記録です。今日はその説に従ってお話していきたいと思います。

ご覧いただいている此の鉄砲は国友銃と申しまして摂州ノ住松本宇兵衛の作によるもので御座います。国友銃と申しますのは、江戸中期、尾張藩鉄砲御用鍛冶、として尾張藩の田付流砲術に寄与しておりますが、この銃は銃床が少し違うので田付流の尾張藩で使われていたものではありません。

では、この火縄銃の仕様について説明させて頂きます。

まず最初に一番肝心の銃身、これは半巻張つくりと申します。銃身に2ヶ所、前と先にあるのが「目当」と申しまして(照準のこと)です。次に銃身底の横にあるのが「火皿に火蓋」です。そして「火挟」火縄を挟むもの、あとカラクリと申しますが(引き金によって火挟みを作動させる装置機関のこと)、一応これで火薬と玉があれば鉄砲として機能するわけでありまして。(火薬は、黒色火薬を使用します。玉は、鉛20g)。

さて種子島に鉄砲が伝わってから10年後には、すでに30万挺もの鉄砲が日本中で保有されていたと言っています。まさに10年後の1553年～1564年は上杉謙信と武田信玄が5度にわたって雌雄を争った川中島の戦、この時も鉄砲が大活躍しています。鉄砲の普及によって合戦に変化が起こった事は間違いありません。

時代は室町末期、優れた武将はいち早く鉄砲を取り入れ、それまでの刀・槍・弓矢の原始的兵器に対し、科学的変化を利用した鉄砲の出現で、持つものと、持たざる者の力の差は歴然としてまいります。

それを実証したのが、1575年天正3年5月21日、甲州武田軍と信長・家康連合軍が戦った長篠の戦です。

一口に長篠の戦と申しますが、これを「長篠城」の戦いとなりますと鳥居強右衛門が主役の話になります。今日お話しするのは、当時日本最強と言われた武田騎馬軍団、とこれを迎え討つ信長・家康連合軍、長篠城近くの「設楽が原」での戦いのお話。織田信長は、機動性を誇る甲州武田の攻撃力を阻止するために考えたのが馬防柵と言われる騎馬軍団の突撃を防ぐ柵、その内側に3千挺の鉄砲隊を配備。この時信長のとった戦略が鉄砲隊を効果的、且つ組織的に活用した最初の武将と言われている。

その戦略とは、因みに火縄銃と弓矢を比較した場合、火縄銃の装填速度は20秒位を要しますが、弓矢では次の矢を放つのに数秒あれば充分で、正確に命中できる距離はどちらも50メートル以下だとすると、弓の方が効果的だと考えますが、衝撃力に於いては格段の差で、命中時兵が受けるダメージさらに音による恐怖感と言うまでもありません。

信長はこれをどのように活用したかと言うと、火縄銃は手練れな者でも一分間に二発、戦場に於いては精神的動揺による不発、失敗、これ等を克服するため、三人一組による連射を考えた、有名な信長の三段撃ち。しかし一挺の鉄砲が連続して撃てるのは十数発程度、それ以上は銃身の過熱と火薬に含まれる硫黄によって銃身が詰まるため途中で筒の掃除が必要だ、それでもそれらを考慮したうえで、三千挺の火縄銃を駆使して武田の騎馬軍団を退けたのであります。

私達は、「設楽が原」馬防柵で実際に三人一組で連続撃ちを再現してみました。鉄砲隊長が号令をかけます。

「撃ち方用意！玉込め用意！

火蓋を切って！放て!!。」

→HPに続く

信長隊が持ち込んだ3000挺の銃のうち銃を休めながら実際戦場で活用したのは50%の1500挺、1挺100発の弾を撃ったとすると150000発、当時50メートルの命中率は10%と言われていた、とすると15000発命中したこととなる。

ちょっと乱暴な計算ですが、この時実に武田軍一万五千の将兵を失い、甲府まで戻れたのは僅か三千名であったことは史実に明らかである。後世武田軍が敗れた理由に鉄砲の軽視が言われますが、実はこれを使いこなす鉄砲戦術の優劣が勝敗を決定することが長篠の戦場、設楽が原で立証されたわけであります。

さて、鉄砲と言うのはただ弾丸を飛ばす装置と言うだけでなく、鉄砲と言う道具によって、火薬のエネルギーが世界を変えたと言う事を知ることが大事なのであります。

原子力が実用化されるまで人間がコントロール出来る最大のエネルギーであった火薬を効率的に利用したヨーロッパ人はあの大航海時代を実現させることが出来たのです。

ですから火薬兵器が現れる前までは、フン族の侵入とかモンゴル軍の攻撃など常に東側

が優勢にあったのですが、火薬兵器が登場すると立場が逆転してヨーロッパ優位の時代に入りました。

その影響は世界地図の塗り替えたに止まらず、今に於いても様々な国際紛争の原点がそこにあることは誰もが知るところであります。

火薬が何時ごろどこで発明されたかについては昔からいろいろ議論がなされていますが、ヨーロッパ人達は長い間イギリスのロジャー・ベーコン、或いはドイツのシュワルツ・ローゼだと西欧発明説を疑いなく信じていましたが、本当は中国人によって発明されたとする説が正しいと立証されたのがやっと第二次大戦以降のことです。

私達日本の火縄銃は外国から伝来しました。しかし外国では早くに雷管銃に進んだのに、200年もの間そのまま、改良は尽していたけれど、これほど即物的に一国の歴史と民族の精神構造に大なる影響を及ぼしたものはありません。

そして火縄銃は、戦争を放棄した日本の歴史の教訓を伝える貴重な遺産であります。

ご清聴ありがとうございました。

